



繪事比肩

福

竹田





題繪事比肩

可侯公書

畫人哉石燕東都無畫人者斯焉取
 斯乃歲石燕圖畫和漢人物搜述索
 偶寫起累百釐為三卷名曰繪事比
 肩山水花鳥繼之上梓云而其所比
 舉者皆就史籍考據焉率非誣誕慌
 惚之事石燕偶來告余曰願乞一言

身觀
 東人

以付剞劂余乃開卷細玩則衆形萬
 態每紙改觀中國與皇和氣類相
 接左右相敵詩曰猗重較兮可以爲
 喻矣余雖未嘗學畫圖之事粗陳其
 狀巧笑倩兮美目盼兮赳赳武夫威
 而可畏峩峩髦士儀而可象被髮有
 焉剃髮有焉精可以凝真可以棲如

是之類對坐雙立殊客國人神交冥
 契宛如共遊一塗同會一堂也噫嘻
 千里而比肩信不虛矣豈其頰上益
 三毛而已哉豈其飛白拂腫子而已
 哉傳神之妙正在阿堵之中古不云
 乎雖小道必有可觀者焉石燕與石
 燕也板刻既成流傳寢廣想使覽者

手披心寄又何快也

安永六年丁酉十二月

芸閣 千葉玄之撰



雲夢 小澤安親書



はる

多ふ由子法有のやい
寛くふり中 暇に花和澤
君は風あふ遊 中に花と川
流心眼と空しき申 ちかふは古乃
昔昔と感一 勇志とよ法こい
あふ考と人 ちかふは古乃
あふふといふ子 妙なるあふ考力の

ふきりしるしむしよのむらさき
詩をよめしむらさき
のーなるふむー

室中為尊大

あふふふふ流月

流月流月



繪事比肩卷之上

○ 帝舜

○ 西王母

○ 西施

○ 張良

○ 利休

○ 仁徳皇

○ 玉津嶋

○ 小町

○ 業平

○ 陸鴻漸

帝舜 ていしん
 史記 しき 曰 い 舜 しん 五 ご 弦 げん の 琴 こと を
 弾 う べ 南 なん 風 ふう の 詩 うた を 歌 うた へ ば
 と 也 なり 其 その 意 い は 南 なん 風 ふう 吹 ふ く 世 よ を
 あ あ づ け ば 一 いつ 草 くさ も 緑 ろく を
 生 な ず 一 いつ 木 き も 青 あお 色 いろ 中 なか 育 よく せ る
 一 いつ 萬 まん 民 みん を 化 くわ し せ ば
 五 ご 穀 こく を 之 これ の せ 太 たい 平 へい 矣 なり
 洛 らく 兗 けん 二 に 州 しゅう と
 也 なり





仁徳天皇

此のときよ ちかひへい
 此の時世の中ち平

みりて五穀のあはれ
 ちひえん 高きつ

一日天皇高きつ
 少く民家ををみ

あひく
 高きつをよのあつて

煙の民の竈ハ
 みぎりい





西王母 せいおうぼ
 列子曰周の穆王崑崙 りやくしよくちゆうのむくわうこんろん
 山子のけりく西王母 さんしよのけりくせいおうぼ
 逢ひ瑤池の上 あひやうちのうへ
 酒宴と又 しゆえん
 七月七日青鸟 しちがつしちにちせいひやう
 飛来し とびき
 西王母漢乃 せいおうぼかん
 衣帯乃別居 いおびのべつこ
 下り くだり
 仙人の道 せんじんのみち
 物語 ものがたり
 せし





玉津島

日女紀曰應神天皇
 の孫忍坂大中姫の妹
 允恭天皇 宮次女世よ比みく
 の侍あり 宮次女世よ比みく
 艶々衣を徹とくせり
 耐乃人衣通姫と云

我せこの身つき音ありていひの

くも乃ふるまいか子と

きりし

西施
 西の方子 家存 姓施
 西施といふ越の国は
 薪を採り 林女あり 越王
 白踐星を 吳王に 献じ
 吳王は 日 欲 せり 色 欲 せり
 國を 滅 せり 色 欲 せり

へー





小世小町 おせこまち
 小舟の良実の お舟のりよみの
 女 おんな あり 仁明天皇 にんめんてんこう
 承和乃比の人 じやうわのひこのひと
 あり 相坂 あさか まで
 死 し せん と あり

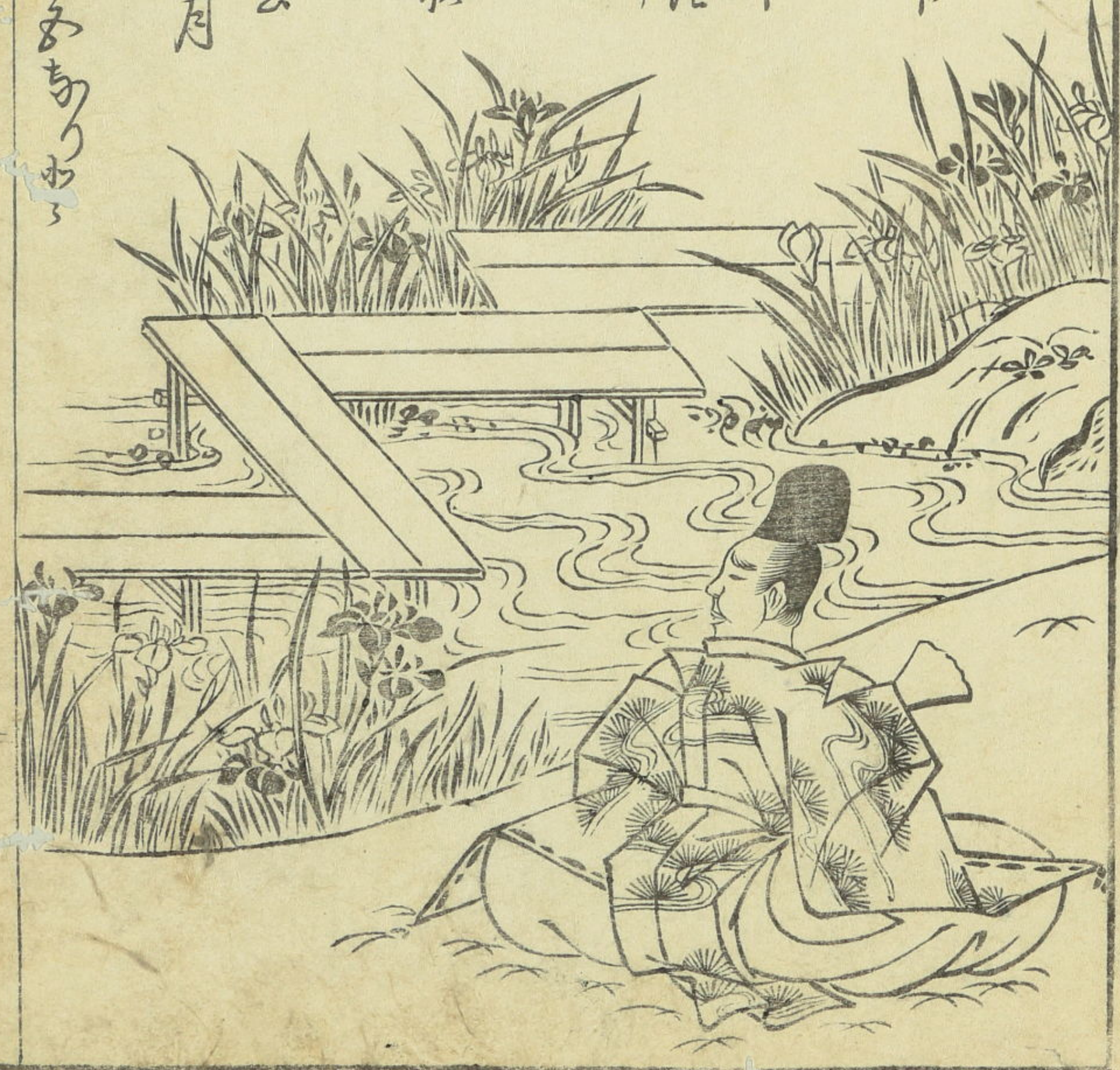
あさか乃 あさかの 関 せき の 清 きよ お お 母 はは
 今 いま や や い い くら くら ん ん ち ち ら ら 有 あ の の 駒 こま



張良 ていりょう
 字ハ子房 あきま 房面美女の むらたけ
 ごく前漢の高祖の せん
 下計 げけい とら
 天下 てんか と字 あきま 下 むらたけ 也
 下邳 げたけ 城 むらたけ 上 むらたけ 有 むらたけ 黄石公 かいせきこう
 乃履 なりん とり なりん 之 なりん 兵法 へいほう
 の書 のしよ と授 とさづ け け あり
 蕭 しやう と吹 とふ く
 楚 そ の大軍 たいぐん と
 散 さん じ
 とあり



業平 あひひり
 體貌閑雅天下 あうくうくく
 の美男 あひひり
 深秘抄 あひひり
 業平初名曼陀 あひひり
 羅丸志雅信 あひひり
 子はひ密法 あひひり
 學びのゆゑ詠歌 あひひり
 多く志言乃 あひひり
 密旨又叶 あひひり
 元慶四年五月 あひひり
 廿八日卒 あひひり
 榮百五十八 あひひり



陸鴻漸

唐の世の人あり茶徑と
作り茶炙茶炙茶の法
茶乃具二十四事と
製都統茶乃具
遠遊を傾慕
せり

一時の名あり
穀奇のゆえに
千のゆえに氏とあり
千のゆえに改めし
同朋の役より名を
生室可家まつ人
名ハ宗易泉州堺の人
千利休



千利休
倉龍軒書

